

全力で突っ走れ！ 折乃笠部長

富士山歴訪の旅

1. 大月秀麗富嶽十二景登山の旅 2012年

【9】九番 倉岳山 高畑山 8月13日(月)



目次

【1】目的

- (1) 更なる大月発見
- (2) 大月市民特性の地理的背景
- (3) 何事にも目的を持ってチャレンジ

【2】大月市秀麗富嶽十二景 十九峰 地図

【3】	八番 岩殿山	4月30日 (月)
【4】	六番 扇山	5月19日 (土)
【5】	十一番 高川山	5月26日 (土)
【6】	七番 百蔵山	6月10日 (日)
【7】	八番 お伊勢山	7月14日 (土)
【8】	十番 九鬼山	8月 4日 (土)
【9】	九番 倉岳山 高畑山	8月13日 (月)
【10】	二番 牛奥ノ雁ヶ腹摺山 小金沢山	8月16日 (木)
【11】	五番 奈良倉山	8月18日 (土)
【12】	十二番 清八山 本社ヶ丸	9月 1日 (土)
【13】	四番 笹子雁ヶ腹摺山	9月 9日 (日)
【14】	一番 雁ヶ腹摺山 姥子山	9月29日 (土)
【15】	三番 大蔵高丸 ハマイバ	10月 6日 (土)
【16】	四番 滝子山	11月 2日 (金)

【17】考察

- (1) 更なる大月発見
 - ①全体を通して
 - ②秀麗富嶽十二景 日本一富士山が美しい十九の峰
 - ③大月の文化
 - ④悲しみの森
 - ⑤まとめ
- (2) 大月市民特性の地理的背景
- (3) 何事にも目的を持ってチャレンジ
 - ①心意気
 - ②チャレンジ ベスト5
 - ③失敗 ワースト5
 - ④楽しかった ベスト5

【18】まとめ

【9】秀麗富嶽十二景 九番 倉岳山 高畑山

8月13日(月)

大月駅 → 梁川駅 中央本線

梁川駅 → 立野峠 → 倉岳山 → 天神山 → 高畑山 →

小篠貯水地 → 虹吹橋 → 浜田屋食堂 → 鳥沢駅

鳥沢駅 → 大月駅 中央本線



九番 倉岳山 高畑山

5時45分

起床。

天気予報に反し、晴。

夏休み全体計画を見直しし、本日山登り決行。

両方九番の倉岳山・高畑山登山に行く。

十分な朝食を取り、体力補強。

(ご飯大盛、お吸い物、焼鮭、目玉焼き&ベーコン、
野菜ジュース。)

昨日、日野の義おとつつあんと飲んだので少し二日酔いだが
許容範囲だっぺ。

家内に車でJR大月駅まで送ってもらう。

6時41分

さわやか気分で大月発高尾行に乗る。

通勤の時とどうしてこうも気分が違うのだろうか？

途中、八番岩殿山、七番百蔵山、六番扇山が青空の下、綺麗に見える。

いずれも、制覇した山々である。

6時53分

大月駅から三つ目の梁川（やながわ）駅着。

ちっちゃな無人駅である。

6時56分

荷物の点検完了。

九番 倉岳山（標高910.1m）に

向けて出発。

ここで倉岳山を紹介

『相模川水系の桂川の南側に連なる秋山山系の一つ。

甲斐国志では鞍岳山と書かれ、鞍立山とも言われた。

桂川方面から見ると鞍の形をしているからと言う。

山頂からの展望に恵まれている。』



無人駅の梁川駅 中央特快は止まる



はるか先に倉岳山が見える

7時03分
舗装路をひたすら登る。

7時15分
登山口。
粋な短歌の石碑がある。
ロマンチックだなあ。

7時28分
ただ、ひたすら暗い山道を登り続ける。
非常に不気味。

7時46分
ひたすら登り続ける。

7時57分
ガマ?カエルと遭遇。
カメラを近くに構えても動じない。
堂々とした態度。見習うべき部分有。



8時02分
暗がりの森の一面に日が燦燦とさす
オアシスがあった。休憩。
ポカリスエットとメントスレインボー
(各種入)が美味しい。
小川のせせらぎと蝉の泣き声と小鳥の
さえずりが聞こえている。
汗がひたたっている。
6分休憩。



どこまでも続く舗装路



登山口 右に登山道



暗くて不気味な山道



日が燦燦とさすオアシス

8時19分

倉岳山水場。

立野峠まで15分。

汗がズボンの膝までグジョグジョにしている。

パンツは、はいていないのと同じ。

8時36分

立野峠到着。

ここから山々の尾根沿いを歩くことになる。

まずは本日最初の目的地の倉岳山山頂を目指す。



立野峠の標識 とても親切

8時54分

尾根とは言え、とにかく登りがきつい。

ここの特長は、山頂近くなるとよじ登る様な登り坂となる。

ハア～ ハア～ から ヒー ヒーに
なっている。

二日酔いの影響はないはずだが・・・。



倉岳山 山頂

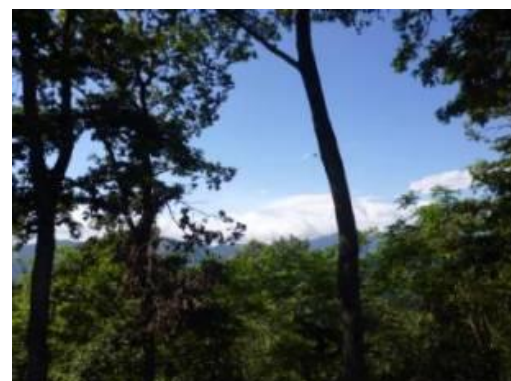
9時11分

やっと倉岳山山頂着。標高990.1m。

しばらく休憩。

山頂は狭い広場になっている。

扇山やその先の山々、鳥沢集落が綺麗に
見えている。



富士の山の方向 富士は雲の中

富士の姿は？

残念ながら雲の中にお隠れになっている。

そう言えば、ここ2～3週間お姿を見ていないなあ。

9時20分

天神山を經由して第二の目的地 高畑山へ出発。

標高は、倉岳山990.1m 天神山876m 高畑山981.9m。

下って、また登ることになる。

9時30分

きつい下りが続く。
 ちょっと下り過ぎとちゃうか？
 せっかく登ったのにもったいないと
 ふてくされる。

9時39分

遠く高い所に高畑山が見えている。
 あそこまで行くんかい。



高畑山を望む

9時44分

またもやきつい登り坂。
 山頂の近くに来ると相当登り坂がきつくなる。
 だからあれ程、もったいないと言ったのに。



山頂近くは登りがきつい

9時46分

途中経由地の天神山到着。
 心臓がバクバクである。
 頑張れ~とすぐ出発。高畑山を目指す。

ここで高畑山を紹介

『相模川水系の桂川の南側に連なる
 秋山山系の一つ。
 山名は焼畑からきているとも言われる。
 山頂からの展望に恵まれている。』



途中経由地 天神山山頂

9時55分

またも大きく下っている。
 ただでさえ、あと標高100m登らなくてはならないのに。
 ふてくされから、怒りモードに変っている。

10時05分

やっぱり山頂近くの急激な登り坂。
 今回の坂は今までの7つの山の中で最高難度。
 200m分の高さを一気に取り返す様な雰囲気。
 足がもつれながら山頂へ。

10時16分

高畑山山頂着。標高981.9m。

さわやかな風が吹いている。

富士の姿が雲の間から若干見えている。



高畑山山頂から富士を望む 雲の合間に若干見えている

青い空を見上げている。

昨日のことを思い出している。

昨日、東京駅近くの相田みつを美術館に行ってきた。

ず～と行きたいと思っていてその念願が叶った。

以前より、相田みつをの素朴な詩が好きだった。

美術館の中は、自記書の詩が多く展示されており、

小生、一点一点かみ締めるように心に刻んだ。

以前から一番好きだった詩、少しの間忘れていた詩

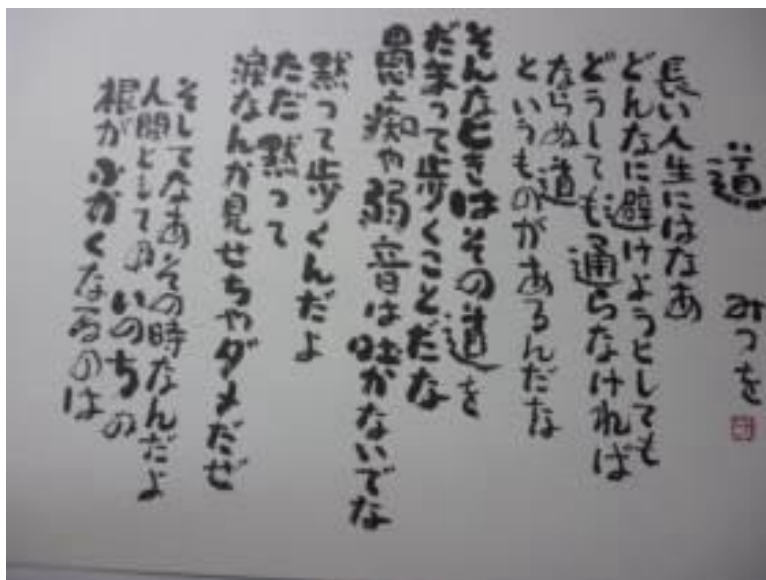
『道』を紹介します。

『長い人生にはなあ
 どんなに避けようとしても
 どうしても通らなければ
 ならぬ道
 というものがあるんだな』

そんなときはその道を
 だまって歩くことだな
 愚痴や弱音は吐かないでな

黙ってあるくんだよ
 ただ黙って
 涙なんか見せちゃダメだぜ

そしてなあ その時なんだよ
 人間としてのいのちの
 根がふかくなるのは』



頭をがあ〜んと殴られた感じです。

200mの標高格差にブウたれていた自分の小ささに
 一喝された様です。

人生、生活、仕事、人間関係全てに言える事なのですね。

高畑山山頂では、小生、考え事でかなり難しい顔をしていたような。

別の登山者が、「お先に！」とさわやかに、別ルートを下山して行きました。

10時26分

吹っ切れて、高畑山出発。

10時51分

杉林が凄い。

少し昔、ここには仙人が暮らしていたそう。

(12チャンネルのアド街大月で紹介されました。)

仙人小屋跡地もある。



少し昔 仙人がいた杉林

11時21分
ひたすら下る

11時34分
この森には 光と影 がある様な気がする。

昨日、上野にある都立美術館の
マウリッツハイス美術館展へ行って来た。
この眼でどうしてもヨハネス・フェルメールの
「真珠の首飾りの少女」を観たかったのである。

素晴しかった。この感動は一生忘れないだろう。

本物を観た瞬間は、少女のまなざしに自分の心が
吸い込まれるようだった。
そして、眼、ターバン、真珠の首飾り、唇などなどの
光と影のすばらしさ。
どうして、絵でこれだけの光と影を表現できるのか？

自然の光と影、この森にはそれが感じられる。

12時00分
小篠貯水池通過。
水のエメラルドグリーンがさわやかだった。

12時05分
鳥沢集落が見えてきた。
駅まで30分。

ここで、後から車が止まり

- ※1 「駅まで乗っていきますか？」
折笠 「ありがとうございます。お尻が汗で凄いのので・・・」
※1 「そうですか。それでは頑張って！」

まだまだ、世の中、棄てたもんじゃない・・・



光と影 不思議な緑の石



小篠所貯水池



鳥沢集落が見えてきた

12時44分

鳥沢駅前の浜田屋食堂。

生ビールで乾杯～！ 美味しい～



鳥沢駅前の浜田屋食堂 山菜そばがお奨め

※2 「御一緒しても良いですか？」

折笠 「どうぞ！ 先程、高畑山の山頂でお会いした方、お疲れ様です。」

※2 「ビールを飲む為に登山しています。」

折笠 「まったく、同じです。」

四方山話が続く、生ビールはお互いに2杯目に突入

折笠 「小生、大月のあちこちに出没しています。」

また、お会いしましょう。」

※2 「こちらこそ、楽しみにしています。」

まだまだ、世の中、棄てたもんじゃない・・・

13時22分

鳥沢駅発甲府行に乗る。

電車の中で、今読んでいる『哲学者アランの幸福論』を思う。

『幸せだから笑うのではない、笑うから幸せなのだ。』

何だか嬉しくなってきた。

登山は、体を使っていろいろな経験をしていく。

そして、その時の心は、動的な心となる。

そこに少しでも、詩を読んだり、絵を観たり、哲学を理解したりの静的な心があると、それが融合して、心が更に大きく豊かになる。

今回は、そんな経験をした貴重な登山だった。

芸術・文学・哲学も、小生にとって大きなテーマだ。

13時30分

大月駅着。家内に迎えに来てもらう。

小生の顔は、笑っていたかな？

P. S. 上記登場人物 ※1 ※2 は、いずれも中年のおじさんで
皆様が期待したかもしれない若い女性ではありませんでした（爆）

